

日本の教育のあり方を考える

—学習指導要領・平和教育・地域教育—

5月10日（土） 13：30～15：30

かながわ労働プラザ第5会議室 横浜市中区寿町 1-4 045-633-5413

JR 石川駅中華街口（北口）徒歩3分、地下鉄伊勢佐木長者町駅出口2 徒歩12分

「歴史教育を考える—学習指導要領の検討を中心に」

山根 徹也（横浜市立大学教授）



高校教科書執筆に参加するなかで学習指導要領の問題点を知る機会がありました。特に問題点が目立つ小学校指導要領の社会科のうち歴史にかかわる問題点を検討し、あわせて近年の関連する政治などの動きを指摘したいと思います。

1965年生まれ。1998年、東京大学大学院博士課程修了、博士（学術）、1999年より横浜市立大学専任教員（国際教養学部教授）

著書に『パンと民衆—19世紀プロイセンにおけるモラル・エコノミー』（山川出版社）など。東京書籍（株）高校世界史A、高校歴史総合の執筆に参加

● コメント

中島常安（名寄市立大学名誉教授 社会保育学）

『幼児期の平和教育と学習指導要領』

鈴木秀顕（松蔭大学准教授 情報リテラシー論）

『地域と社会実践から学校教育を考える』



● パネルディスカッション 報告者および会場参加者による討論

日本科学者会議神奈川支部では、第61回大会をむかえるにあたって、横浜市立大学教授の山根徹也さんのお話と、中島常安（名寄市立大学名誉教授）、鈴木秀顕（松蔭大学准教授）のコメント、そして、会場の参加者をまじえたパネルディスカッションを行います。日本の教育は幼児教育から大学まで、確立しているようにみえますが、憲法にある教育の機会均等は保障されていません。義務教育ですら、経済的な格差が学力につながるようになっています。かつて、教科書検定をめぐる家永裁判は、横浜市では歴史を否定するような教科書の採用をめぐる問題となっています。学会議会員への選任拒否は、その独立を否定する法改正の動きになっています。日本の教育はどうあるべきか、みなさんと考えたいと思います。参加費は無料です。資料代、会場費のカンパをお願いします。